

平成28年度 農林水産祭参加 全国肉用牛枝肉共励会

農林水産省大臣賞に宮城県・川村 和弘 殿

枝肉単価 15,054 円で(株)丸富商店 が落札

平成28年度全国肉用牛枝肉共励会が、10月25日から10月28日まで、東京食肉市場に出荷実績を持つ29都道府県より選抜された乳用去勢牛及び交雑去勢牛70頭、和牛去勢270頭、和牛牝160頭の合計500頭で開催され、東京食肉市場(株)設立50周年の節目の大会となった。

名誉賞に輝いた和牛去勢の289号は、宮城県から出品された川村 和弘殿の出品牛で、全体的に肉付き・均称の良い体型で、肉質光沢に優れ、無駄のない正肉歩留まりで、素晴らしい最高級の枝肉であった。川村 和弘殿は、農林水産省大臣賞、東京都知事賞をはじめ数々の名誉ある褒賞を受賞された。この名誉賞の牛は、父「茂洋」、母の父「安福久」、宮城県産、月齢32ヶ月、生体重899kg、枝肉重量641kg、歩留71.3%、格付A5（BMS12・BCS3）、枝肉単価15,054円、枝肉金額9,649,614円で(株)丸富商店により落札された。

各部の最優秀賞は、第1部が栃木県・田村 孝一殿の18号牛が、枝肉単価2,615円で(有)丸金おおつか、第2部は福島県・(株)湯浅ファーム殿の337号牛が枝肉単価7,003円で(株)コシヅカ、第3部は青森県・(有)金子ファーム殿の589号牛が11,112円で(株)中村畜産により購買された。部門別の成績は下記の通り。

部門	頭数	生体重量(kg)			枝肉重量(kg)			枝肉歩留(%)			単価(円)		
		平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低
第1部乳用・交雑去勢	70	932	1,134	734	607	751	460	65.1	69.0	60.2	1,654	2,615	1,371
第2部和牛去勢	270	834.9	1,048	674	571	702	441	68.3	74.1	61.5	2,757	15,054	1,997
第3部和牛牝	160	697	870	550	471	595	361	67.6	74.9	62.3	2,873	11,112	2,180

本共励会の出品規則第6条「生体到着時の体重の制限」により、第2部和牛去勢の25頭、第3部和牛牝で7頭の合計32頭が審査対象外となり、審査の対象となったのは468頭であった。

大動物事業部

<10月の相場動向>

10月の牛枝肉相場は、和牛去勢のA5が前月比77円高(前年同月比250円高)、同A4が40円高(同154円高)、同A3が57円高(同124円高)、同A2が103円高(同14円高)となり、交雑種去勢はB4が14円安(同10円安)、B3が14円安(同41円安)、B2が6円高(同89円安)であった。全国と畜頭数は、4,000頭台が続く安定した出荷頭数となったが和牛・乳用種は減少、交雑種は増加傾向と末端需要が伸び悩む中、相場はもちあい推移した。前月同様に歩留まりや枝肉仕上りの良し悪しで価格差が大きい状態は続いている。

和牛去勢月平均	前年同月比	前月比	
A5	2,912円	109.4%	102.7%
A4	2,607円	106.3%	101.6%
A3	2,447円	104.4%	102.4%
A2	2,254円	100.6%	104.8%
交雑去勢月平均	前年同月比	前月比	
B4	1,823円	99.5%	99.2%
B3	1,682円	97.6%	99.2%
B2	1,513円	94.4%	100.4%
乳牛去勢月平均	前年同月比	前月比	
B3	上場なし		
B2	719円		66.8%

<11月の牛肉輸入量予測>

輸入牛肉通関量	9月	前年同月	前年同月比	
フローズン	豪州	12,496	13,632	91.7%
	米国	8,629	12,733	67.8%
	その他	1,994	2,670	74.7%
	合計	23,119	29,035	79.6%
チルド	豪州	9,117	10,000	91.2%
	米国	9,175	6,457	142.1%
	その他	890	585	152.1%
	合計	19,182	17,042	112.6%

出典：食肉速報

財務省の貿易統計による9月の牛肉通関量は前年同月比8.2%減の4万2,301tと前年を下回った。チルドは2カ月連続で2万tを割ったものの、豪州産を除く主要国で増加となった。フローズンは前年の大幅増の反動から3割ほど落ち込んでいる。内訳については上記の通りである。

農畜産振興機構による11月の輸入牛肉入荷量は、4万600t(前年同月比9.2%減)としている。うちチルドが1万7,900t(同2.6%減)、フローズンは2万2,700t(同13.5%減)と前年実績を大きく下回ると予測している。

<11月の全国出荷頭数予測>

農畜産業振興機構の11月の出荷予測頭数によると、前年同月比0.8%減の10万5,400頭と予測している。和牛が同5.3%減の4万7,500頭、交雑種が同9.7%増の2万3,100頭、乳用種が同1.1%減の3万3,400頭としている。交雑種は酪農家の黒毛交配率の上昇により増加に転じ、和牛、乳用種は今後も減少傾向が続く見通しである。

東京食肉市場の11月と畜頭数は、8,580頭を予定。

<11月の牛枝肉相場見通し>

11月は年末を意識した手当買いが進む時期ではあるが、牛枝肉相場の高値を受けて末端需要の低迷が長期化する中で大きな期待は持てない。しかしながら、本格的に鍋物需要などが活発化する時期であることや、銘柄牛を中心とする歳末ギフト用手当などにより安定した需要は見込まれる。

和牛去勢	価格予測	交雑去勢	価格予測
A5	2,800~2,900	B4	1,800~1,850
A4	2,550~2,650	B3	1,650~1,750
A3	2,400~2,500	B2	1,500~1,600
A2	2,150~2,250		
乳牛去勢			
B3	1,150 ~		
B2	1,000 ~		

小動物事業部

食肉流通統計によると、9月の全国と畜頭数は137万7,000頭(前年同月比103.1%)となり前年より増加した。また、9月分の豚肉通関実績は、総量で7万2,354t(前年同月比112.8%)と前年より上回った。うちチルドが3万2,124t(同113.1%)で内訳は、米国が1万8,053t(同105.2%)、カナダは1万3,024t(同127.7%)に増加。メキシコが1,043t(同98.9%)と減少。フローズンは4万229t(同112.6%)と前年を上回り、デンマークが9,769t(同107.3%)、メキシコが5,053t(同116.0%)、米国が6,304t(同158.3%)、カナダが3,333t(同101.2%)と増加した。

<10月の豚取引の推移>

上旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
3日	62,500	458	450	724
4日	64,600	494	476	901
5日	62,400	480	459	775
6日	67,100	475	455	894
7日	66,200	467	453	827
11日	74,800	481	465	686
12日	70,100	493	473	899

上旬の全国と畜頭数は1日あたり6万6,800頭と前年を上回る頭数であった。当市場においては平均815頭と前年を下回る上場頭数であった。

9月の後半に上物価格が500円台から400円前半まで下落したことと、10月から出荷頭数が増えることを見込んで、大手量販店が国産物中心の手当をはじめた。これに伴い輸入量を絞り込む事でバランスを計る動きがみられた。当市場の上物平均価格は478円、中物平均462円と安定した値動きであった。

中旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
13日	69,300	487	464	1013
14日	68,700	472	451	934
17日	65,200	490	460	796
18日	69,000	501	474	743
19日	63,900	472	447	828
20日	68,100	467	442	828
21日	67,500	469	458	996

中旬の全国と畜頭数は1日あたり6万7,300頭と前年をやや下回った。当市場は平均880頭と前年と同様であった。

10月も二週目にさしかかると、ようやく秋らしい気候となり、鍋物需要でバラの荷動きが良化してきた。しかし、全体的に消費は鈍く、量販店では品揃えが国産と輸入物が均衡する状態となった。また、堅調であったスソ物が落ち着いた荷動きとなり、価格も若干下げてきた。

当市場の上物平均価格は480円。中物平均457円と上旬

と同レベルであった。

下旬	全国と畜頭数	上物価格	中物価格	上場頭数
24日	65,400	479	458	831
25日	66,200	502	478	797
26日	67,700	510	496	636
27日	68,000	504	476	931
28日	68,300	501	473	835
31日	66,200	537	522	654

下旬の全国と畜頭数は、平均6万6,900頭と前年を上回った。当市場の上場頭数は平均780頭と前年を下回った。

気候の落ち着きと共にバラ・スソ物の荷動きは堅調であったが、その他の部位は鈍化傾向であった。

10月後半となっても7万頭を下回る全国頭数となり、輸入量も前年同月比マイナスであったが、消費動向は端境期ということも有り振るわなかった。当市場の上物平均価格は505円、中物平均484円と最終日には中物も500円を突破した。

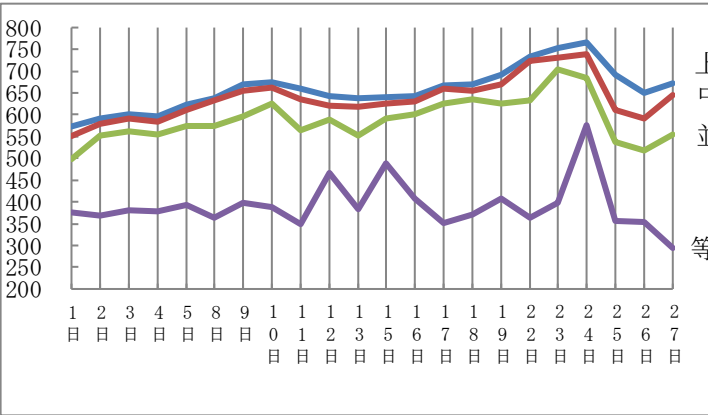
<11月の豚枝肉相場見通し>

農水省による11月の全国と畜頭数は、149万4,000頭(前年同月比106.0%)と予測しており、一日当たりの頭数は約7万4,700頭である。当市場の10月の集荷予定頭数は1万8,000頭となっており、一日当たりでは約900頭の見込みである。また、農畜産業振興機構による11月分の豚肉輸入見込数量は、総量で7万1,800t(前年同月比109.5%)の予測となっている。内訳はチルドが2万8,800t(同101.0%)、フローズンは4万3,000t(同116.0%)の予測である。

また、8月における豚肉推定在庫量は、国産品が1万7,533t(前年同月比103.7%)、輸入品は15万8,779t(同98.1%)となり合計17万6,312t(同98.7%)となった。推定出回り量は14万1,197t(前年比106.2%)で前年を上回った。うち国産品は7万2,563t(同113.5%)、輸入品は6万8,633t(同99.5%)であった。国内生産量は7万1,438t(同111.8%)と前年を上回った。

11月は豚肉輸入量が増加の見込みであり、全国と畜頭数も増加予想と考えられる。また、牛・鶏肉も同様に増加予測となっている。このように肉類全般的に増加傾向な状況ではあるが、気温が下がると共に消費動向も上向いてくると思われる。荷動きとしては10月後半から鍋物商材、特にバラが堅調なってきたり、スソ物が安定した需給バランスを継続中である。また、11月後半からは年末に向けた手当需要が見込まれる。

最近の相場値動きを見ると、上物加重で500円台後半が限界値であることが顕著であり、極端な乱高下の相場予測とはならないであろう。よって、当市場の上物平均価格は485円、中物平均価格460円と予想する。



東京食肉市場株式会社

TEL:03-3740-3111 FAX:03-3472-0127